里山の秋を楽しむ (秋の七草)

〇秋の七草とは

ハギ、ススキ、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウです。

七草は、山上憶良(やまのうえおくら)が万葉集(巻八)で詠んだ歌に由来。「萩の花 尾 花 葛花 瞿麦 (なでしこ)の花 女郎花 (をみなへし) また藤袴(ふじばかま) 朝 貌 (あさがほ)の花」。秋の七草の覚え方は、「おすきなふくは」、「おきなはすくふ」。

Oハギ

マメ科ハギ属。日本のほぼ全域に分布。言語は、毎年古い株から芽を出すことから「ハエギ」の意味。和名は「生え芽(はえぎ)」。秋の七草のハギはヤマハギ。万葉集に歌われた 160 ほどの植物中ハギは最も多く 141 を数える。花言葉は、想い、前向きな恋。薬用部分は根で、婦人のめまい、のぼせによい。

Oススキ

ススキ科ススキ属。日本全域に分布。語源ははっきりしない。和名は「すくすく立つ草」。 尾花とはススキ。カヤまたはオオガヤとも呼ばれ屋根葺きに利用。月見など秋の風流には 欠かせない。ススキの仲間をカヤというのは、葉を刈り取って屋根を葺いたので「刈屋根」 がなまったといわれる。花言葉は、活力、努力、勢力、悔い無き青春。薬効なし。

Οクズ

マメ科クズ属。クズの語源は諸説あり。和名は奈良県の国栖(くず)が葛粉の産地だったとも。クズの根から採取したデンプンが葛粉で葛切りや和菓子に利用。葛湯はお馴染。 葛粉と呼ばれる食品の多くは馬鈴薯澱粉が混ざり、混じりけのないものは本葛という。英名は日本語の kudzu である。花言葉は根気、努力、治療、芯の強さ、恋のため息。薬用は根で葛根といい、発汗、解熱、感冒、首や肩コリにきく。

Oオミナエシ

オミナエシ科オミナエシ属。語源は明らかでないが 901 年ごろ女郎花と書くようになったとか。和名は美女を圧倒するほど美しいという意味で「女圧し(おみなえし)」、粟粒に似た花を咲かせることから「女飯」の転化とも。黄色い花で独特の匂いがある。白い花のオトコエシがある。まれに両者の交雑種としてオトコオミナエシがある。花言葉は美人、心づくし。薬用は、鎮痛、抗菌、消炎、腹痛、下痢、肝炎、婦人病にきく。

〇「故郷の空」大和田建樹

タ空はれて あきかぜふき つきかげ落ちて 鈴虫なく おもえば遠し 故郷のそら ああ わが父母 いかにおわす すみゆく水に 秋萩たれ 玉なす露は すすきにみつ おもえば似たり 故郷の野辺 ああ わが兄弟(はらから) たれと遊ぶ

次回は10月12日(日)。テーマは、「里山の実りと種子たちの知恵」是非、御参加下さい。